

令和2年度 後志教育研修センター事業推進の基本構想

I 運営の基本方針

1 目的

後志教育研修センターは、後志管内20市町村が管内教職員並びに社会教育指導者等の資質・能力の育成に役立つ研修講座事業と管内教育の充実・振興に必要な調査研究事業を協働で実施することを目的とする。

2 運営の方針

- (1) 実践に生きる研修講座事業の改善・充実に努め、指導力の向上を図る。
- (2) 教育課題の解決を目指す調査研究事業に努め、その成果を提供する。
- (3) 教育情報の収集・提供に努め、情報のセンター的役割を果たす。

3 運営の重点

- (1) 次代を担う子供たちの将来を見据え、中央の教育動向や教職員等のニーズを的確に捉え、それらに応え得る研修講座を設定し、受講者の実践力向上と学校力向上に努める。
- (2) 今日の教育課題の解明を図る調査研究事業を推進し、実践に生きる研究資料を提供するとともに、検証授業等を通して個々の資質・能力の向上と学校力向上に努める。
- (3) 中央の動向に注視し、管内各町村の研究集録等の収集を図り、教育情報のセンター的役割を担い、各学校に必要な研究資料を提供できるように努める。
- (4) 管内小中学校及び教育機関団体と緊密な連携を図り、管内教育の向上に努める。

II 研修事業・調査研究事業

1 研修講座事業

(1) 研修講座開設の趣旨

今日、情報化社会に向けてデジタル化とグローバル化など、社会の変化が大きく進展している。次代を担う子どもが感性を豊かに働かせながらより良い人生を築いていくために、自ら学び、自ら考えることに加え、他者と共生・協働し、知恵を持ち寄り、未来を切り拓く力が強く必要とされている。そのためには、学校・家庭・地域など社会総ぐるみで連携・協働しながら、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組が重要となってきている。

各学校においては確かな学力、健やかな体、豊かな心を総合的にとらえて子どもの生きる力を育み、地域に対し信頼される学校づくりを進めることがこれまで以上に求められている。とりわけ、小規模校が半数を占める北海道・後志の地域性やベテラン教職員の大量退職とそれに伴う新採用教職員の大量採用という時代の流れから、当研修センターの研修講座事業は人材育成という観点から重要な役割を担っている。

学校教育講座においては、これらに応える学校・学級経営や教科指導、特別支援教育の在り方を中心とした講座を設定し、教職員一人一人が専門職として、自ら高い専門性と実践的な指導力を身に付けるよう教師力の向上を図る。また、社会教育と幼児教育各講座においては、今日的課題を明確にしながら関係機関のニーズに合った講座を開設し、社会教育担当者と幼児教育担当者の資質・能力の向上と実践的な指導力の向上を図る。

(2) 講座内容

- ① これまで実施してきた講座の内容を継続・発展しつつ、今日的課題の解明を図るものとする。
- ② 各教科の講座においては新学習指導要領の趣旨や方向性についてより理解を深め、「主体的・対話的で深い学び」について浸透させていくものとする。
- ③ 受講者に対しては今後の研修の在り方を見通すことができるよう教職員のキャリアステージに応じた受講計画一覧を配布する。
- ④ 本年度の研修内容については、特に次の3点について留意する。
 - 1 演習を取り入れた参加型の研修とする。
 - 2 ワークショップ型の研究協議を取り入れ、少人数で充実した交流を図る。
 - 3 研究協議の中に小中学校の連携の内容を盛り込む。
- ⑤ 具体的な研修講座は、次のようにする。
 - 1 学習指導講座は基礎編(授業づくり)と応用編(授業改善)の2講座とし、調査研究との関わりから講師はセンター所員が行う。
 - 2 学級経営講座は基礎編(学級づくりと話し合い活動)と応用編(ガイダンス・カウンセリングを活かした学級づくり)の2講座をそれぞれ1日日程で行う。
 - 3 外国語・外国語活動研修講座は初級編(基本的な授業づくり)、中級編(実践的クラスルームイングリッシュ)の2講座をそれぞれ1日日程で行う。
 - 4 教職員のカリキュラム・マネジメント講座、幼保小の連携講座、学校と地域をつなぐ社会教育

- 講座、へき地・複式教育講座は一般教諭に加え、管理職の受講も促していく。
- 5 幼保小の連携講座はそれぞれの連携を主眼としながら、受講者はそれぞれの校種から募集を行い、講師も各校種から選定していく。
 - 6 ものづくり講座及び家庭科講座、図工・美術科講座及び生活科・総合的な学習の時間講座は、隔年での開催とする。
 - 7 食育講座は食に関する指導の充実を図り、管内における食育の活性化を図る。また、栄養教諭の参加に加え、一般教諭の参加も促していく。
 - 8 ICT 研修講座（旧情報機器講座）の研修内容にプログラミング教育の内容を盛り込む。

（3）講師

- ① 講師は管内教職員から要請し、所員会議及び学校や教育関係機関団体等から広く意見を聴き、決定していく。
- ② 校内研修と学習指導講座の講師については、研修講座と調査研究の連携を図るため、センター所員が担当する。
- ③ 実践と授業づくりの講座は、新学習指導要領の趣旨や方向性について理解を深めるため、北海道教育庁後志教育局と積極的に連携を図っていく。
- ④ 外部講師は可能な限り多く配置し、講座の充実を図る。また、北海道立教育研究所、北海道立教育研究所附属理科教育センター、北海道立特別支援教育センター等を積極的に活用していく。
- ⑤ 外部講師による講義は公開講義として設定し、講座受講者に加えて広く教職員や教育関係者に公開をしていく。

2 調査研究事業

（1）学習指導に関する調査研究

- ① 研究主題 『新しい研究主題』（3年次研究の1年目）
～ 新しい副題 ～
- ② 研究内容 具体的には研究委員会開催後に決定
- ③ 研究委員長 ※参考 R1年度 亀井孝志（島牧中学校） ○副委員長 本間拓喜（京極中学校）
- ④ 研究委員会 13回程度予定（検証授業3回）

（2）社会教育に関する調査研究

- ① 研究主題 『地域づくりの担い手育成に向けた行政と住民の連携・協働』（4年次研究の2年目）
～ 新しい副題 ～
- ② 研究内容 具体的には研究委員会開催後に決定
- ③ 研究委員長 ※参考 R1年度 土門啓二（黒松内教委） ○副委員長 小川康和（余市教委）
- ④ 研究委員会 6回程度予定

（3）調査研究事業報告会

- ① 目的 後志教育研修センターで行われている調査研究事業が後志管内の教育向上に寄与するため、報告会を通してその成果を管内に広める。
- ② 日時 令和3年1月8日（金）予定
- ③ 会場 後志教育研修センター 第1研修室
- ④ 参加者 管内教職員、社会教育指導者、教育関係者、センター所員
- ⑤ 内容 学習指導・社会教育に関する調査研究事業の概要報告

3 センター事業

（1）第53回後志管内教職員夏季研修会（後志教育講演会）

- ① 目的 管内教職員及び地域住民が参加する講演会を実施し、教職員の資質・能力育成と地域住民の教育力の向上を図り、後志教育の一層の充実、発展を目指す。
- ② 期 日 令和2年8月4日（火）13：30～15：30
- ③ 会 場 倶知安町第一会館
- ④ 内 容 講演会
- ⑤ 講 師 高橋義男氏（とまこまい脳神経外科副院長）
- ⑥ その他 互助会の補助事業となる年度

4 北海道教育研究所連盟研究発表大会（後志大会）の準備

令和3年度に第76回北海道教育研究所連盟研究発表大会が後志を会場に開催される。平成21年度以来の開催となるので、研修部長を中心に今年度より準備業務を進めて行く。

- ① 期 日 令和3年8月26日（木）～8月27日（金）予定
- ② 会 場 倶知安町第一会館